

第二次長野市環境基本計画 ー 長野市の環境に関する意識調査(アンケート)についてー

1. 市民アンケート

毎年実施している「まちづくりアンケート」にて実施

調査対象：市内在住の20歳以上の男女

標本総数：5,000人(うち外国籍住民51人)

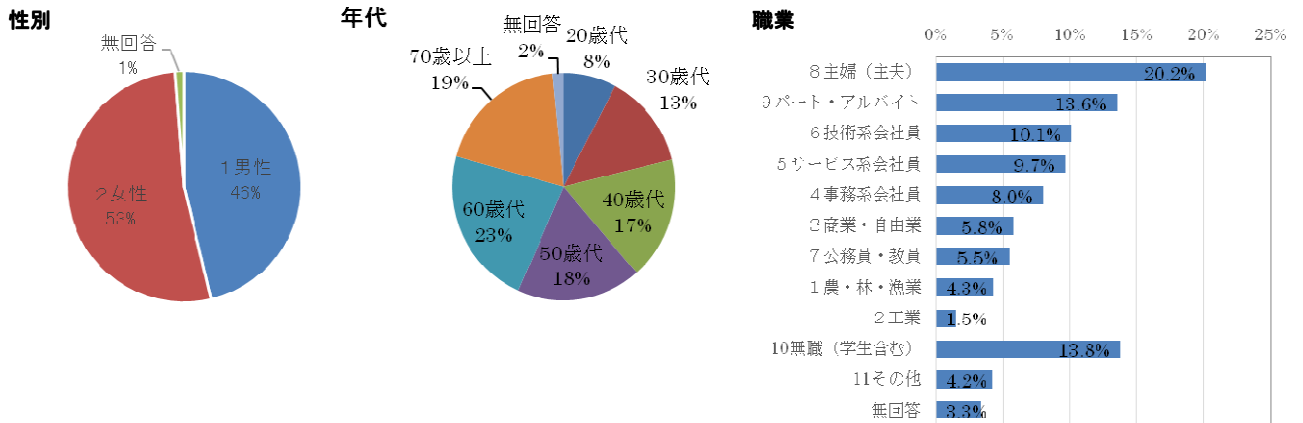
調査期間：平成27年10月23日(金)から11月6日(金)

回収結果：3,169通(うち外国籍住民14通:前年度比△5.8%)

回収率：63.4%

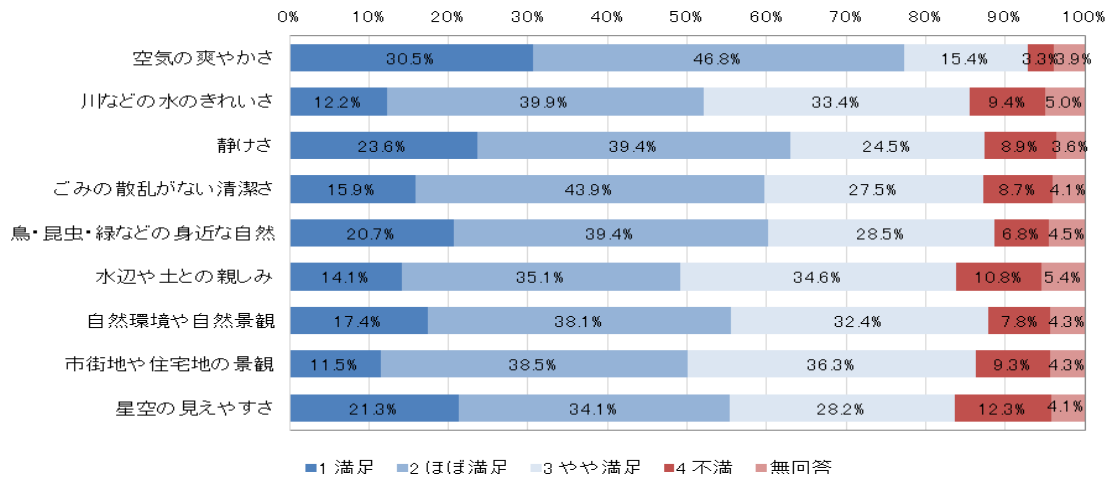
(1) 回答者の属性

- 60歳代が最も多く23%、ついで70歳以上(19%)、50歳代(18%)、40歳代(17%)、30歳代(13%)、20歳代(8%)であった。
- 専業主婦・主夫が最も多く(20.2%)、次いで無職(13.8%)、パート・アルバイト(13.6%)となった。

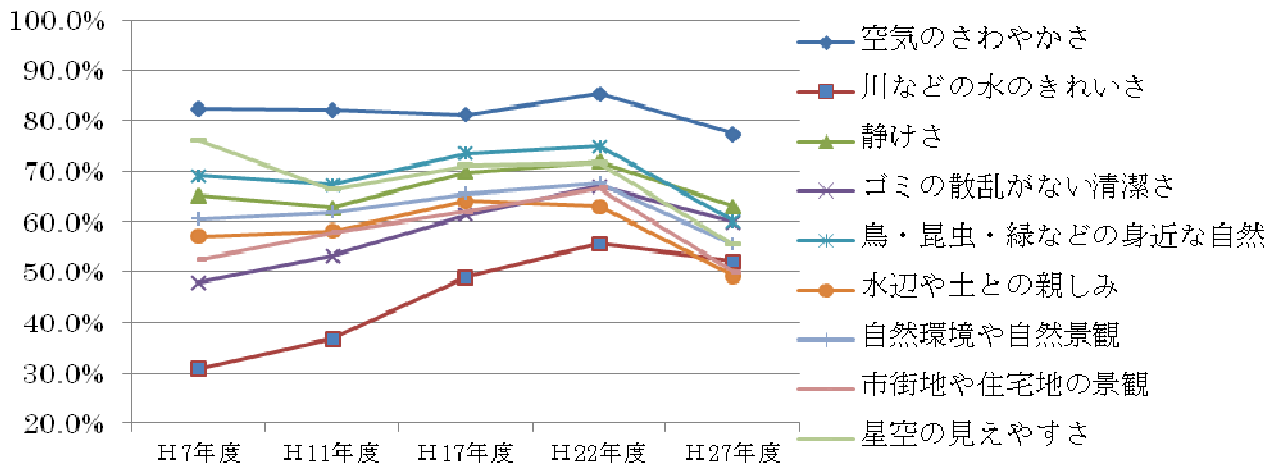


(2) 現況の環境の満足度

- 全ての項目において、半数近くの回答者が「満足」または「ほぼ満足」と回答している。
- 「川などの水のきれいさ」「水辺や土との親しみ」が他の項目に比べてやや低い。
- 平成7年度以降、ほとんどの項目で、一貫して満足度が増加、または高い水準でほぼ横ばいに推移していたが、全体に満足度が減少している。



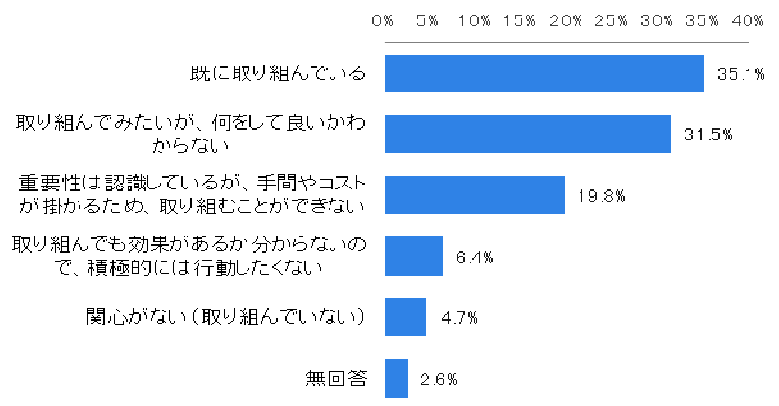
【環境に対する満足度】



【環境に対する満足度の経年変化】

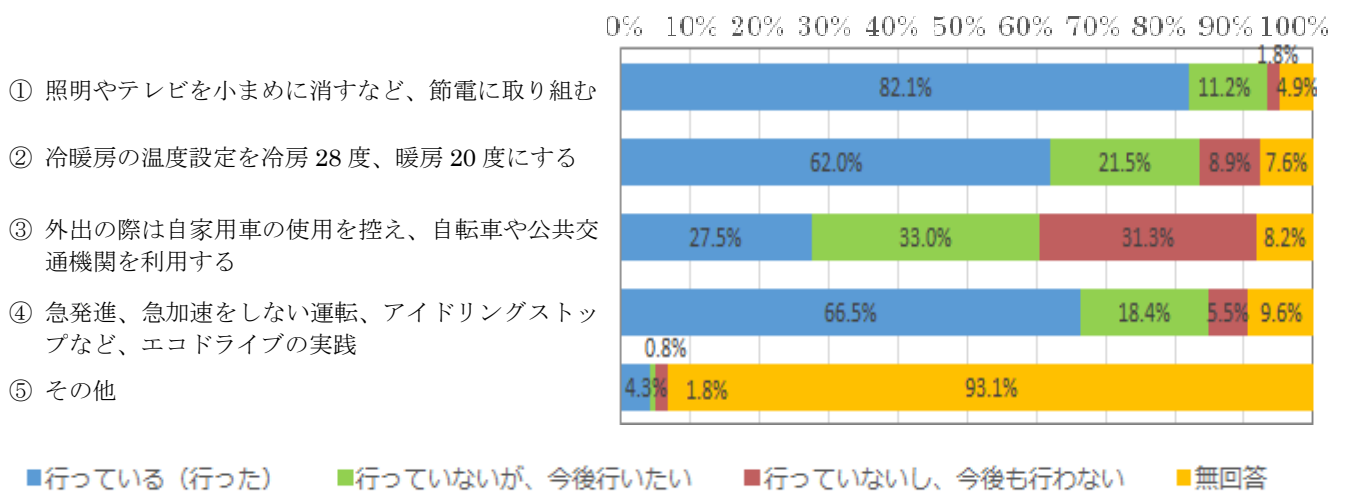
(3) 地球温暖化対策への取組状況

- 「既に取り組んでいる」が35.1%と最も多い回答となっている。
- その一方で、「取り組んでみたいが、何をしても良いかわからない」も31.5%と次に多い回答となっている。続いて、「手間やコストを理由に取り組むことができない」19.8%となっている



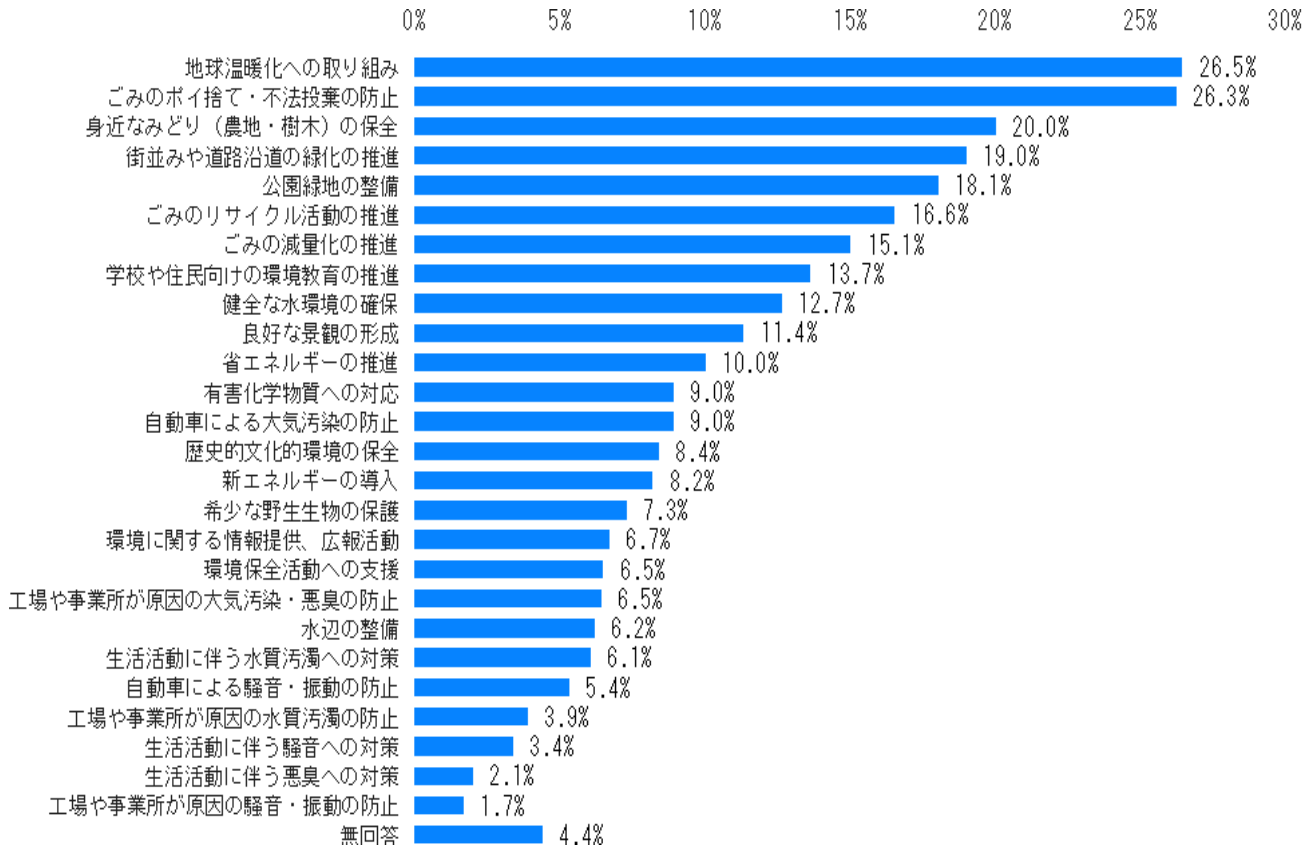
(4) 家庭における地球温暖化対策への取組状況

- 「こまめに消灯している」(取組率82.1%)「冷暖房の設定温度」といった家庭ですぐできる節電の取組は、非常に高い取組率となっている。
- 外出時に自家用車を使用している割合が多い一方で、エコドライブの実践を行っている割合は高くなっている。



(5) 今後の取組に関して重要と考える取組

- ・ 「地球温暖化への取組」(26.5%)が最も多い回答となった。
- ・ 次いで、「ごみのポイ捨て・不法投棄の防止」(26.3%)と選択した市民が多い。
- ・ 次いで、「身近なみどり(農地・樹木)の保全」(20.0%)、「街並みや道路沿道の緑化の推進」(19.0%)、「公園緑地の整備」(18.1%)という都市の緑に関連する項目が上位を占めた。



●総評

- ・ 現況の環境の満足度の高い項目については、前回の調査時とあまり変わっていないが、全体的に満足・ほぼ満足の割合が減少傾向にある。特に、虫や鳥、土や水など身近な自然とのふれあいや緑化に関して、まだ改善の余地があると思われる。
- ・ 今後の取組に関して重要と思われる取組の順位は、前回の調査時と変わっておらず、今後も地球温暖化対策とごみのポイ捨て・不法投棄の防止について、引き続き、重点的な取り組みが必要と思われる。
- ・ 地球温暖化については、最も今後の取組として重要であるという意識ではあるが、「取り組みたいが何をしたら良いのか分からない」という面に加え、「省エネルギーの推進」「新エネルギーの導入」についての意識はあまり高いとはいえず、今後、「地球温暖化」を身近な問題と感じ、考えられるような機会の創出や啓発が必要と思われる。
- ・ 「ごみのポイ捨て・不法投棄の防止」が同じ廃棄物関連の項目である「ごみのリサイクル活動の推進」や「ごみの減量化の推進」に比べて突出して多く、減量化やリサイクルに比べて、ポイ捨てや不法投棄に対する取組がまだ不十分と感じている市民が多いことが想定される。引き続き、根絶に向け、関係諸団体等と連携した対応が必要と思われる。

2. 事業所アンケート

調査対象：長野商工会議所 議員・部会委員及び青年部、女性部

標本総数：300 事業所

調査期間：平成 27 年 12 月 23 日(水)から1月 22 日(金)

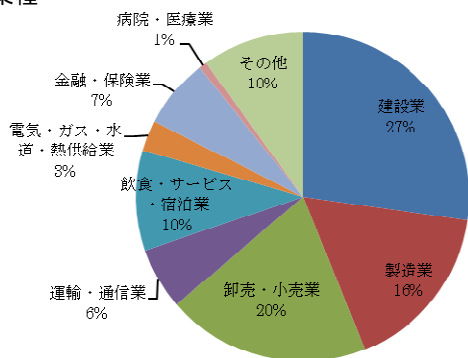
回収結果：135 事業所

回収率：45.0%

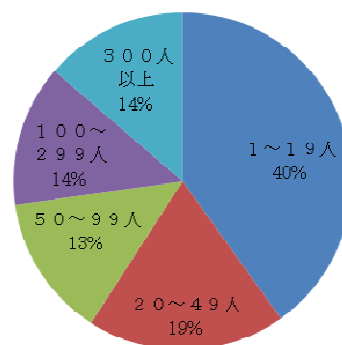
(1) 回答者の属性

- ・ 業種は建設業、卸売・小売業、製造業が 20%前後となった。
- ・ 従業員数は 1～19 人が最も多く、他はほぼ同じ割合となった。

業種



従業員数



(2) 保全活動の状況

- ・ 現在の環境保全活動への取組状況と今後の取組状況について質問したところ、ほとんどの事業所で「既に取り組んでおり、今後も取り組んでいく」という回答をとった。
- ・ しかし、「質の高い自然環境の確保」に関する質問については、「取り組んでいない、取り組む予定はない」という回答が多くなった。

【凡例】

現在の状況(%)		今後の方針	
1	積極的に取り組んでいる	1	積極的に取り組む予定
2	取り組んでいる	2	取り組む予定
3	取り組んでいない	3	取り組む予定はない
	無効 (空白)		無効

■循環型社会の構築	アンケート結果	現在の状況に対する今後の方針 (件数)
1. 事業活動で排出するごみの分別、減量及び再資源化に努める	<p>現在</p> <p>今後</p>	
2. 流通段階及び製品の販売時の簡易包装に努める	<p>現在</p> <p>今後</p>	

<p>3. ごみの処理業者や処理等の手順や方法などについて把握し、適正な処理に努める</p>	<p>現在 今後 </p>	<p>1 70 1 2 36 10 3 5</p>
<p>4. グリーン購入に努める</p>	<p>現在 今後 </p>	<p>1 32 2 2 46 14 3 3 17 15 1</p>

<p>■ 良好な生活環境の確保</p>	<p>アンケート結果</p>	<p>現在の状況に対する今後の方針（件数）</p>
<p>5. 事業所からの排気及び排水の測定を行い、設備の適切な管理に努める</p>	<p>現在 今後 </p>	<p>1 27 3 2 29 9 3 7 52 1</p>
<p>6. 騒音・振動・悪臭を発生させないよう施設管理に努める</p>	<p>現在 今後 </p>	<p>1 41 3 1 2 45 11 3 4 24</p>
<p>7. 事業所敷地及び所有空き地の適正な管理に努める</p>	<p>現在 今後 </p>	<p>1 3 40 2 56 19 3 9</p>
<p>8. 事業所周辺の清掃をするなど、周辺住民との良好な関係の構築に努める</p>	<p>現在 今後 </p>	<p>1 59 3 2 45 10 3 9 4</p>
<p>9. 適切な夜間照明を行い、周辺への光害に配慮する</p>	<p>現在 今後 </p>	<p>1 41 2 2 59 9 1 3 15 1 2</p>

<p>■ 質の高い自然環境の確保</p>	<p>アンケート結果</p>	<p>現在の状況に対する今後の方針（件数）</p>
<p>10. 地域に生息する希少・外来動植物についての理解に努める</p>	<p>現在 今後 </p>	<p>1 19 2 20 1 2 3 19 66</p>

<p>11. 壁床材、机、鉛筆など森林資源の積極的な活用に努める</p>	<p>現在</p> <p>今後</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p>
<p>12. 下草刈りや間伐などを行う里山保全活動への参加・支援に努める</p>	<p>現在</p> <p>今後</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p>

<p>■豊かで快適な環境の創造</p>	<p>アンケート結果</p>	<p>現在の状況に対する今後の方針（件数）</p>
<p>13. 工場や事業所の敷地・壁面・屋上・駐車場の緑化に努める</p>	<p>現在</p> <p>今後</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p>
<p>14. 雨水貯留施設の設置など、事業活動における節水に努める</p>	<p>現在</p> <p>今後</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p>
<p>15. 建造物（建物、屋外広告等）設置時における地域の景観協定への配慮や周辺の景観との調和に努める</p>	<p>現在</p> <p>今後</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p>

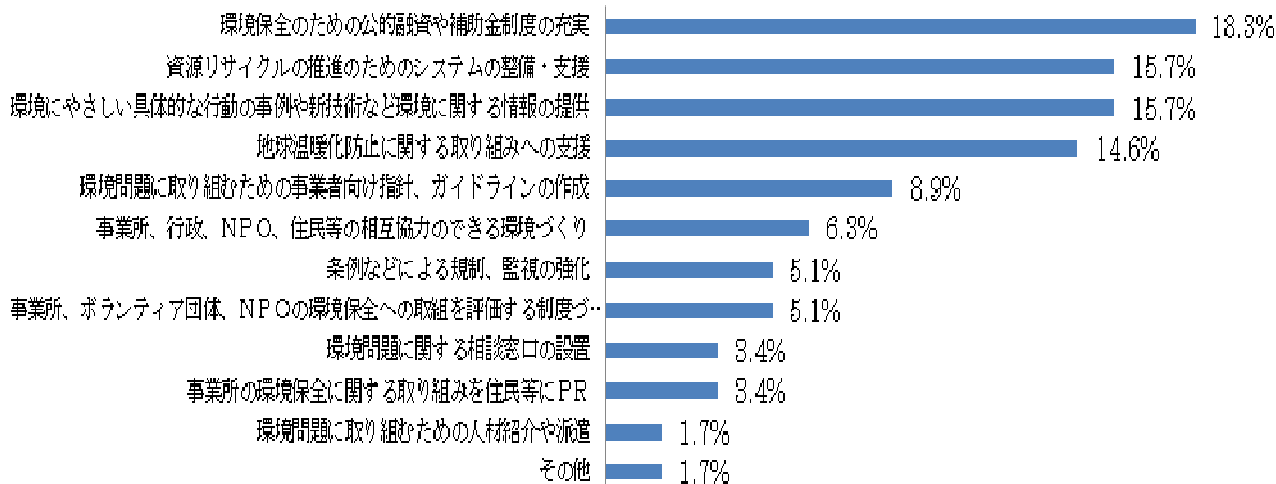
<p>■低炭素社会の構築</p>	<p>アンケート結果</p>	<p>現在の状況に対する今後の方針（件数）</p>
<p>16. 省エネ設備・機器の導入に努める</p>	<p>現在</p> <p>今後</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p>
<p>17. 再生可能エネルギー（太陽光やバイオマス熱等）の導入に努める</p>	<p>現在</p> <p>今後</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p>
<p>18. 次世代自動車等、環境に配慮した自動車の導入に努める</p>	<p>現在</p> <p>今後</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p>

19. 業務用車両におけるエコドライブに努める	<p>現在</p> <p>今後</p>	
20. 徒歩、自転車及び公共交通機関を利用した通勤に努める	<p>現在</p> <p>今後</p>	

■市民・事業者・行政の連携強化と人づくりの推進	アンケート結果	現在の状況に対する今後の方針（件数）
21. 地域の様々な環境保全の取り組みへの参加・協力を努める	<p>現在</p> <p>今後</p>	
22. 同業種、異業種間での環境保全に向けた取り組み(輸送、原料リサイクルの共同化など)に努める	<p>現在</p> <p>今後</p>	
23. 環境教育や環境学習会の開催または参加に努める	<p>現在</p> <p>今後</p>	
24. 従業員に対する環境教育の推進とボランティア休暇の設定などによる環境保全活動への参加に努める	<p>現在</p> <p>今後</p>	

(3) 今後の取組に関して重要と考える取組

- ・ 「環境保全のための公的資金や補助金制度の充実」(18.3%) が最も多い回答となった。
- ・ 次いで、「資源リサイクルの推進のためのシステムの整備・支援」(15.7%)、「環境にやさしい具体的な行動の事例や新技術など環境に関する情報の提供」(15.7%) となった
- ・ 「地球温暖化防止に関する取り組みへの支援」(14.6%) も上位となった。



●総評

- ・ ほとんどの事業所が「ごみの減量や再生品の利用には取り組んでおり、意識が高い」と考えられる。また、「積極的に取り組む」と回答した事業所も多く、更に取り組む余地があることが示された。
- ・ 事業所の規模や業種に関わらず、環境美化や空き地の適正管理、周辺住民への配慮など、周囲への配慮に留意しているところが多い。今後、周辺住民や光害に対する配慮に更に取り組んでいく姿勢が伺える。
- ・ 希少種や外来動植物に対する意識は低く、情報提供のあり方を検討する必要がある。
- ・ 敷地の緑化や景観に対する事業所の取組率や今後の取組希望は高い水準にあり、市民アンケートの結果同様、緑に対する意識が高いと思われる。
- ・ 「省エネルギー機器・設備の導入」や「エコドライブの推進」については、多くの事業所が実施している。温暖化対策のみならず、経費節減にも繋がることから、事業者の関心が高いと思われる。
- ・ 環境学習や環境教育に関しては、現在、取り組んでいる事業所が50%に満たない。しかし、今後取り組んでいきたい意向が示されている。環境学習・環境教育は、業種、規模等関係なく取り組むべき事項であり、更なる啓発が必要と思われる。
- ・ 「環境保全のための公的融資や補助金制度の充実」「資源リサイクルの推進のためのシステムの整備・支援」が多く、市民同様、廃棄物に対する関心が高い。また、環境保全に対する具体的な支援、情報を求めている事業所が多く、今後、情報提供が重要となると思われる。

3. 環境パートナーシップ会議アンケート

調査対象：環境パートナーシップ会議の理事およびプロジェクトリーダー

(1) 現在の環境活動について

現在の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの高齢化と減少 ・県・市・住民自治協議会・企業等の他団体との情報共有ができていない ・様々な情報を外に発信することができていない。
今後、活動を継続していく上での課題	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの高齢化、新陳代謝が起きず活動が先細り ・活動資金（補助金）の減少と自主財源の確保の難しさ ・活動の広報、周知の方法 ・新たな人材やノウハウをもった方との人脈づくり

(2) 今後、行政に求めること

順位	項目	具体的内容
1位	他団体や企業等との連携支援	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、商工会議所との連携、協働、協賛 ・エコサークルゴールド企業との連携、協働、協賛 ・住民自治協議会との連携、協働
2位	活動費などの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個別活動支援と広報・啓発活動の推進及び支援は分けてほしい ・必要最低限の資金援助（補助金）の継続
他	活動場所・機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・チームイベントの広報にもつながる場所の提供 ・活動拠点となりうる場所
	全国規模の動向がわかる講演会、シンポジウム等の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな人材が集まる環境づくり ・全国ネットワークの長野シンポジウムの開催 ・チームに関する写真展や講演会の開催
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動のありかた、支援を優先してほしい

(3) 今後、取組に関して重要と考える取組

- ・「地球温暖化防止への取組」（19%）が最も多い回答となった。
- ・次いで「新エネルギーの導入」「学校や住民向けの環境教育の推進」となった。

地球温暖化防止への取組	19%	省エネルギーの推進	5%
新エネルギーの導入	14%	ごみのリサイクル活動の推進	5%
学校や住民向けの環境教育の推進	14%	街並みや道路沿道の緑化の推進	5%
環境保全活動への支援	10%	良好な景観の形成	5%
身近なみどり（農地・樹木）の保全	9%	希少な野生生物の保護	5%
ごみの減量化の推進	9%		

(4) 環境活動を行っているなかで感じていること、意見、提案など

- ・ 地球温暖化については、広く温暖化防止と叫ばれているが市民生活上の危機感は低い。身近な生活を見直すことの大切さやゴミの減量など、特に若い世代にどう伝えていくか課題である。
- ・ 国、県、市、民間、個人が一体となっていない。
- ・ 環境への関心がかつてより薄れ、行政の取組も減少している気がする。経済だけではない新しい社会のあり方を考える上で、環境を考え、行動することの重要性は増している。長期の視点であるべき環境を考えて欲しい。
- ・ やらなくてはいけない「業務」ではなく、楽しくできる「行動」がいい。
- ・ 生産活動との関連もあり難しい面もあるが、技術の発展に合せた商品開発への誘導、メンテナンスのコストダウン、共通部品等の社会システム作りなどが必要と思う。(特に住宅、家電製品)
- ・ 豊かな自然について、地元がその大切さに気づいていない

●総評

- ・ 現在及び今後の課題として、活動メンバーの高齢化と減少による活動の制限や縮小をあげる回答が多く、活動の継続・発展のため、活動内容等の情報を広く発信し、参加メンバー（特に若年層）の確保が必要であると思われる。
- ・ 行政に対しては、企業、商工会議所、住民自治協議会などの他団体や企業との連携・協働の支援を求める回答が多く寄せられた。
- ・ 活動費などの支援のほか、活動場所等の提供や講演会等の開催など、幅広い支援を必要としている。
- ・ 地球温暖化を含む環境問題について、身近な問題であるという意識が低く、身近な自然の大切さに気づいていない人が多いため、今後、情報提供と周知・啓発の方法について検討する必要がある。